

キラリ わたしの学校

～誇れる文化、養蚕体験～

美九里西小学校では、校区内にある世界文化遺産「高山社跡」を地域学習の中核に据え、養蚕体験に積極的に取り組んでいます。

春の遠足では、各学年の最終目的地を高山社跡とし、建物を背景に全校児童で記念写真を撮りました。また4年生は、社会科や総合的な学習の時間に高山社について学習し、その過程で養蚕体験をしています。5月末には地域の養蚕農家へ訪問し、蚕の特徴や上手に育てる工夫などを教わりました。その際に譲り受けた111頭の蚕は、4年生の児童らで大切に育てました。また、県蚕糸技術センターからいただいた640個の卵も、ふ化して順調に育ちました。蚕を育てることについて4年生の児童は「大切な命を預かっているということの責任を感じている」と真剣

美九里西小学校

問い合わせ 学校教育課(☎508212)
美九里西小学校(☎21945)



↑市内の養蚕農家へ訪問し、養蚕農家の苦勞や工夫などについて教えてもらいました。

なまなごで話します。今後4年生が育てた繭は6年生が卒業式で胸につけるコサージュの材料として使われる予定です。また今年で3年目の参加となる「校旗を作ろうプロジェクト」では、児童会旗の作成を目標としています。6年生が育てた繭からとった生糸と考えたデザインで旗を作成します。6年生は「伝統ある活動を今後も下級生にも続けてもらいたい」と意気込みます。

蚕は廊下や玄関で飼育され、全学年が見たり触れたりして、とても大切に育てています。児童にとって身近な蚕の飼育は命を慈しむ心と郷土を愛する心とともに代々引き継がれ、母校・地域の誇れる文化となっています。



Name

こぐれ ひろと みやざわ かずき きむら まさき
小暮 大翔くん 宮澤 和希くん 木村 真咲さん

本との出会い

図書館司書がセレクトした新刊情報

開館時間 午前9時～午後8時(土・日曜日、祝日は午後5時まで)
休館日 月曜日
問い合わせ 図書館☎21669

あとは切手を、一枚貼るだけ



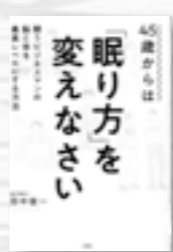
著者▷小川 洋子・堀江 敏幸
かつて愛し合い、今は離ればなれに生きる「私」と「ぼく」。2人を隔てた取り返しのつかない出来事。14通の手紙に編み込まれた哀しい秘密。作家2人が仕掛ける胸を震わす物語。

旧友再会



著者▷重松 清
年を重ねると増えていく「再会」の機会。再会は、一度別れたからこそもの。どう別れたかで、再会の仕方も変わってくる。会いたい人、会いたくない人、忘れていた人。全5編を収録。

45歳からは「眠り方」を変えなさい



著者▷田中 俊一
睡眠を変えれば人生が変わる。45歳を境に、睡眠不足が心身に与える影響力は各段に大きくなる。脳と体、仕事や私生活の充実度と健康度を最高レベルに高める睡眠の方法を紹介。

人権を考える

問い合わせ 生涯学習課(☎26888)
子ども課(☎402286)



～虐待から子どもを守る～

虐待は人権侵害です

新聞やニュースでは毎日のように「児童虐待」が報じられており、大きな社会問題となつていきます。群馬県内の3つの児童相談所に寄せられた昨年度の児童虐待の相談件数は、過去最多の1374件前年度比120.5%。10年連続の増加で、子どもを取り巻く環境の悪化が懸念されています。児童虐待は、子どもに対する重大な人権侵害です。子どもの心に大きな傷となつて残り、子どもの生命や心身の発達、人格形成にさまざまな悪影響を及ぼします。

児童虐待とは

- 身体的虐待Ⅱ殴る、蹴る、激しく揺さぶる、やけどを負わせるなど
- 心理的虐待Ⅱ言葉による脅し、無視、差別的扱い、子どもの前で暴力を振るうなど
- ネグレクトⅡ食事を与えない、長時間の放置、風呂に入れない、ひどく不潔にするなど
- 性的虐待Ⅱ性的行為を見せる、強要するなど

る、強要するなど
虐待は犯罪です。どのような理由があってもやってはいけません。

児童虐待はなぜ起るのか

多くの場合、次の要因が重なって起ると考えられます。
○親の要因Ⅱ育児不安、病氣、親自身に虐待経験があるなど
○子どもの要因Ⅱかんしゃくが激しい、こだわりが強いなど
○家族を取り巻く環境Ⅱ育児に関して相談できる人がいない、不安定な夫婦関係、経済的な不安など

地域で子育て

欧米では、地域で子育てをしています。日本では子どもが親が家庭で育てるものという考え方が根強く、親が孤立してしまい、重大な事態へ発展することも少なくありません。この認識を変えていくことが重要です。そのためには、普段から地域でのコミュニケーションが大切です。「挨拶をする」「声を掛け合う」など

のちょっとした触れ合いが人間関係を築き、苦しんでいる親や子どもたちを救うことになるのではないのでしょうか。
子どもたちは藤岡市の宝です。虐待から不幸な将来を歩ませることなく、笑顔で希望に満ちあふれた子どもたちを育てていきましょう。

気になる家庭を見つけたら

身近に気になる家庭を見つけたら、市役所の相談窓口などに相談しましょう。「もし誤解だったら」という思いが虐待を見逃してしまうこともあります。虐待している親も誰かに気付いてほしいというサインを送り続けているのかもしれません。

虐待の通報・相談窓口 市役所子ども課(☎402286)・ふじおか子育て110番(☎5110)・西部児童相談所(☎027・322・2498)・こどもホットライン(☎0120・783・884)・児童相談所全国共通ダイヤル(☎189)・藤岡警察署(☎20110)